www.ficec.jp

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を！

ハローフレンズ

ファイセック FICEC
ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2016年 春 号（季刊）第139号

5人全員高校入試に合格

「中央ろうきん若者応援ファンド・就労を目的とした、外国ルーツの子どもの学習支援」終了

「中央ろうきん若者応援ファンド」の支援をいただいて活動してきた「就労を目的とした、外国ルーツの子どもの学習支援」が3月を以て終了しました。勉強してきた5人全員が無事に高校入学試験に合格することができました。

平日参加の生徒は延べ442人、国際子どもクラブの活動を含めて土曜日は557人、合計延べ999人の学習者の参加がありました。指導者は932人でほぼマンツーマン方式で学習しました。そのほか新規学習者に対する面接と進路相談を16回、学校の転入手続き・入試願書手続き・高校入学手続・アルバイト支援に計12回同行しました。

中学生と受験生が対象の「先輩に聞く会」には18名、埼玉労働者福祉協議会の協力による「ボッシュ株式会社の東松山工場見学」には8名が参加しました。

中央ろうきんさんに心からのお礼を申し上げるとともに、たった1年間で日本語初級から始まって高校入試まで勉強した5人の若者におめでとうのエールを送り、指導に当たったスタッフの皆さんと共に「ばんざい」と喜び合いたいと思います。

定期総会のお知らせ

第18回定期総会を開催します。会員の皆様ふるってご参加ください。
プチパーティーを予定しています

■日時　平成28年6月12日（日）午前10時～
■場所　**ふじみの国際交流センター事務所**
ふじみ野市上福岡５－４－２５　TEL０４９－２５６－４２９０

お車でおいでの方は、恐れ入りますが近くの有料駐車場をご利用ください。

中央ろうきん若者応援ファンド（国際子どもクラブを含む）の取り組み報告

＊学習者のルーツ

中国18名・フィリピン23名・ウズベキスタン2名・ネパール・コロンビア・メキシコ・ミャンマー・パキスタン各1名

＊今年度の取り組みに対しての良い点と問題点

・中央労働金庫から「若者応援ファンド」の支援を受けたので、学習教材が豊富に用意でき、遠くから通う生活困窮家庭の学習者に交通費を渡すことが出来るなど、さまざまな取り組みができました。

・ふじみ野市はもとより、近隣の朝霞・新座・所沢・坂戸・三芳からたくさんの生徒が参加し、坂戸から通う生徒を通して、坂戸市の日本語教室と協力し合えました。今後も協力しあう信頼関係が構築できました。

・国際子どもクラブに参加するボランティアが充実しているので、とても助けられました。

・生徒の数が多くなりすぎ、年齢層も6歳から17歳と広がり、一つのクラブとしてのまとまりを持つことが難しく、生徒の学習内容が違いすぎて、きめの細かい指導が出来ませんでした。

・受験生に対しては、5教科の大まかなカリキュラム作成の必要を感じました。

・夏休みは、生徒の増加に合わせて学習支援者の人数が多くなりすぎて、一人一人の学習進度と問題点をつかむことが出来ず、責任が持てる範囲で、生徒を受け入れる体制を組むことが大切であると感じました。

＊参加した子どもの感想

Aさん

日本の会社に1度も行ったことがなかったので、工場見学に行ってビックリしました。みんなと行かれてとても楽しかった。先生方はとても優しくて、簡単な言葉で教えてくれたので、日本語の勉強は難しいと思っていたのに、よくわかった。

Bさん

入学試験の勉強を教えてくれてありがとうございました。みんなに教えてもらったおかげで合格できました。高校に入ってもFICECに遊びに来ます。

Cさん

先生一人ひとりが丁寧にわかりやすく教えてくれて、日本語が十分わかっていなくても易しい言葉で教えてくれたので、よく理解できました。色々な国の人と会えて、その機会はめったにないことで、本当に良かった.

■中央ろうきん若者応援ファンドとは

ろうきんは、働く仲間を応援する非営利・協同の福祉金融機関。労働組合・生協・市民活動団体などの非営利組織との連携により、働く人をとりまく福祉課題の解決に取り組んでいます。

「中央ろうきん若者応援ファンド」は、家庭環境や経済状況、病気や障害などの諸事情による社会的な不利・困難を抱え、不安定な就労や無業の状態にある若者を応援する、<中央ろうきん>の新しい市民活動助成制度です。

石井さんと出会い、泣きながら高校に入ってほしいとお願いされた

崔　松鶴くん

中国吉林省出身。２１歳

中国の吉林省出身。現在21歳。父親、母親、姉の4人家族。姉は中国在住。4年前の2011年10月に来日。当時17歳。翌年3月に富士見高校の一般入試に合格。

FICECの隣に住んでいて、母親の紹介でFICECに通うことになった。毎朝9時50分に起きてセンターが始まる10時に合うように行っていた。最初は全然日本語ができなかったが、3、4ヶ月で話せるようになった。書くのは苦手で、会話ばかりしていた。今では日常会話は問題なくできるけど、学校などでの読み書きは半分ぐらい。FICECでは他にも中国から来た子と友達になった。FICECは人が困っている時に助けてくれる。履歴書の書き方も教えてもらった。

日本に来て驚いたことは、車が人を待つこと。(中国では)みんな道を譲りたくないのかもしれないが、歩行者の信号機が青になっても車がいたら人は走って渡らなくてはならない。もう一つは、自分のいた高校では一学年に800人ぐらいいた(一クラスに60人、一学年で14クラス)が、富士見高校では一学年200人ぐらいしかいなかったこと。中国の高校に入るには全国統一試験を受けるけど、高校に行ける人は大体半分ぐらい。結構問題が難しい。行けない人たちはフリーターになるか専門学校に行く。

富士見高校では部活に入ったのですぐ友達ができた。バスケ部で3年間、5番か6番のポジションにいた。コーチは厳しくて、「出来ません」と言いたくなくて頑張りすぎて疲労骨折したこともあった。今でもバスケ部の仲間と連絡をとっている。

中国では高校での部活動はないと思う。朝の7時から夜の9時まで授業があるから。バイトもできない。先生は、自分のクラスから優秀な子を出すほど、給料が上がるので、一生懸命教えてくれる。先生が来なくても別の先生が来て教えるので、一日ずっと勉強している。僕はほとんど勉強せず、教室の後ろで寝ていた。夜通しパソコンで遊んで、朝に寝る生活をしていたら、勉強ができなくなって親が日本に連れて行った。最初は就職しようと思っていたが、その時にFICECの石井さんと出会い、泣きながら高校に入ってほしいとお願いされ、高校に入ることにした。高校に入って良かったと思う。

現在は高校を卒業し、ホンダの技術専門学校に通っている。バイクと車の技術を学んでいるけど、車はあまり好きじゃない。でも、将来は日本で就職して車関係の仕事、給料の高い仕事に就きたいと思う。中国では、ホンダの車はお金持ちの学生が乗っている。ホンダは中国に3箇所しかなく、アメリカに会社が多い。中国人のお金持ちはベンツに乗っている。

中国は大きな鳥のような形をしている。吉林省は中国の北の方にあって、鳥の頭の部分にある。自分が住んでいたところからは、ロシアと朝鮮と日本海が見えた。

今の悩みは、来日して4年間彼女ができないこと。第一印象が良い子がいいな。同級生に女の子は少ないしアルバイト先でも忙しくて、ほとんど女の子と出会う機会がない。高校生のバイトは夜9時半までいるけど、その中に女の子はいないので、結局男子とばかり話している。

日本ではふつうに生活しているが、中国にいた時の方が毎日友達と遊んでいて楽しかった。今は毎日勉強で忙しくて友達と遊ぶ時間がないのがつらい。

(インタビュー:加藤・小林　写真:本多)

スタッフ紹介　牛込亜紀子

以前、私は3年間日本語教師として、中国に住んでいました。その間、最も苦労したことは、言葉の壁ではなく習慣の違いでした。日本語を単に中国語に訳しただけでは、相手の気持ちに寄り添えないということに気づかされました。

この経験から、きっと日本に来た外国人も言葉だけではなく、習慣の違いなどで苦労していることが多いのではないかと思いました。ですから、外国人の皆さんがどれだけ毎日幸せに過ごせているのか。今度は「日本に来て良かった」「日本っていい国だな」と思ってもらえるよう、恩送りをしたいと考え、ボランティアを探していました。そんな折、埼玉県主催のヒューマンフェスタでFICECのことを知りました。自宅でHPを見てみると、私と同じ想いで活動をしている団体だと分かりました。

ボランティアに入り、現在の私は、自宅作業で「外国籍市民のための生活ガイド6か国語版」に携わっています。富士見市、ふじみ野市、三芳町が行っている行政サービス・窓口部署の情報が6か国語に訳されています。もちろん、私が6か国語全てを訳すのではなく、それぞれの言語の翻訳をされる方、またHPにアップしてくださる方もいます。

このように、たくさんの方に助けてもらいながら生活ガイドは出来上がります。その度に「今年も良いものが出来上がった」という充実感と、一つの手立てが出来上がったという安堵感を感じています。

これからもFICECの活動を通し、それぞれの気持ちを分かち合いながら、優しい心が広がっていくことを願っています。

見送りの３振より空振りの３振　パートⅡ

石井ナナヱ

○月○日

辛くなると志木の川を見に行く。子どもの頃走り回った土手。川は60年前と同じように勢いよく流れていた。川面で遊ぶカモやシラサギ、オオイヌノフグリと西洋たんぽぽが土手を埋め尽くしている。昔とちっとも変わっていない。変わったのは私だけ。なんでこんな風になってしまったのだろう。四面楚歌、孤立無援、絶体絶命、五里霧中。4文字熟語が頭の中で渦巻く。

額に触れるほど低く枝を下ろした桜に見とれていると、バーベキューを楽しむ若者たちの歌声が聞こえてきた。

「思うようにならない日は、明日頑張ろう」朝ドラの主題歌である。そうか。そうだった。一生涯順風満帆というわけにはいかないのだ。

「明日があるさ明日がある。若い僕らには夢がある」坂本九の歌が口をついて出た。68とはいえ90歳から見ればまだ若造。明日がある。明日頑張ろう。

○月○日

S市内のある小学校長から電話が入った。

「うちの学校にネパール人の子どもが入ってきたんです。母子ともに日本語が全然わかりません。どなたかネパール語のわかる人を派遣してもらえませんか」という。あいにくネパール語の通訳がいないことを話すと「そうですよね。何もできないことがわかれば入学をあきらめるでしょう。彼らは就学の義務がないんですから」と言う。目が飛び出るほどびっくりした。

今世界中で起きているテロ。その国で育った外国籍の若者によるテロが多い。なんで育った国でそんなことをするのか。私たちには理解できない疎外感や差別感、不公平感があったのだろうか。

日本には今223万人の外国人が暮らしている。彼らが被害者意識を持たないで暮せるように、私たちは十分に配慮しなくてはいけない。ひいてはそれが日本の繁栄と安全に繋がるのだから。

「埼玉県日本語教室一覧」を調べた所、S市周辺には実に30以上の日本語教室があることがわかった。さっそくリダイヤルしてFax番号を聞き、A4で7枚分の日本語教室情報を伝えた。

「校長先生、彼らも苦しんでいるのです。どうぞよろしくお願いします」と言葉を加えて。

振り返りの感想

〈国際子どもクラブのボランティアをして感じたこと〉

武田早希

大学三年生の春頃、友人からFICECを教えてもらったことがきっかけで子どもクラブの活動を知り、ここでのボランティアを始めました。活動に参加することになったものの、子どもに勉強を教えた経験は全くなく、ましてや子どもたちに日本語を教えるということに対し不安もありましたが、スタッフの方々にアドバイスをいただきながら、子どもたちと共に勉強を行いました。約2年間のボランティアを通し、自分が関わった子どもたちが成長していく姿も見ることが出来て嬉しく感じるとともに、さまざまな想いを抱えながら日本で生活し、懸命に学習する姿を見て、私自身も子どもたちからたくさんの刺激を受けました。子どもクラブに毎週参加することは出来ませんでしたが、それでもこのような私を慕ってくれる子どももおり、それは単純に嬉しく感じますし、この活動に参加することが出来て本当に良かったと思います。

土曜の子どもクラブのみならず、料理教室や、その他の活動にも参加させていただきましたが、それらの活動を通し、FICECそして子どもクラブがこの地域にとってなくてはならない、必要とされている存在であると感じました。日本に住む外国人が年々増加していく中で、その中でも特に子どもたちが、社会から孤立してしまわないようにしなければならないと私は思います。そのためにも、子どもクラブの存在は重要であると思います。活動に参加させていただく中で、大変なことも多くあると分かりましたが、今後も子どもクラブが子どもたちにとって、よりよい居場所、学習の場になればいいなと思います。

この春大学を卒業したことで、子どもクラブの活動に参加することは難しくなりますが、再び子どもたちの成長した姿を見ることを楽しみに、私自身も自分の目標に向かって頑張りたいと思います。お世話になったスタッフの方々、そして子どもたち、本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センターを応援しています

加藤久美子さん

（ふじみの国際交流センターのこれまでとこれから）

うろ覚えですが15年以上前に、埼玉県主催国際交流の研修で、石井理事長が講師として直近の話題を提供してくれました。それと前後して、社会教育埼玉集会（会場　埼玉大学）では外国籍の人々、特に子どもたちの生活、学習に焦点を充て分科会参加者の論議が集中しました。ようやく国際交流への関心が、ここまで到達した時期といえたのではないでしょうか。

それ以前から、困難な現状に気がついた以上、手をこまねいてはいられないと活動をされていました。資金的には、働いて得た収入を当て歩み始めたことに、先人の苦労を感じました。

これまでふじみの国際交流センターは、多くの国籍の方々のよりどころになりました。スタッフに恵まれ活動のすそ野を広げた反面、財政的には苦労の連続でした。

現在は国際結婚（古いですね）も多く、学校の入学卒業式には外国籍の子どもたちが複数いる状況で、もっと身近な相談窓口、さまざまな支援が必要です。

社会的には、根強い偏見・差別意識や外交・経済問題に揺れ動く困難さと外国籍の方々自身の自立に向けた新たな課題も出てきて難しさを感じています。

でも、今までも楽な道のりではなかったはず、めげない理事長の心意気とみなさんのねばり強さで道は開けると信じています。

私が住む富士見市では、いま1.600人の外国籍の方々が住んでいます。これからも仲良く一緒に住み続けていきたいと思います。　そのためにもふじみの国際交流センターの存在は大事で、私のよりどころでもあり、応援をしていくつもりです。

平和記念集

「平和記念誌　編集実行委員会に参加して」

ふじみ野市生誕10周年記念事業の「平和記念誌」実行委員会に編集委員として計５回参加しました。

「平和」をテーマにした作文、絵、写真を市民から公募して、集まった作品を審査、優秀な作品を選びました。応募総数が約230点もあり、集まった9名の委員で手分けして優秀な作品を絞り込みましたが大変でした。実際に戦争を経験された方々の文章は壮絶で、自分の家を焼かれ、爆撃機の乗組員の顔が見えるほどの距離で命からがら逃げたなど、「このような事がまた起こってはならない。平和は大事だ。」という一言には説得力がありました。

若い世代は自分の身の回りから考えて、いじめや環境問題に取り組む事で世の中を平和にしたいという考えと、身内や本やメディアから過去の戦争を学び、その事を忘れないよう伝えていきたいという思いを書いたものが多かったです。全体を見ると世代から世代へ受け継がれるものがあるように思われました。ただFICECのスタッフとしては、「外国を知りたい」、「世界中の人と仲良くしたい」といった意見が少ないという印象がありましたが、なぜそうなるのかは興味深いところです。

表紙のデザインを依頼されましたので、編集委員として感じた事をふまえて平和の象徴である鳩が自由に未来に向けて飛ぶことをイメージして作りました。(小林)

人口減少

『～人口減少社会突破戦略研究会に参加して～』

平成27年5月～平成28年2月まで、埼玉県の自治体職員研修機関の「彩の国さいたま人づくり広域連合」が実施している『平成27年度政策課題共同研究』に参加しました。これは、県内の自治体や民間企業、NPO、大学などの職員が集まり、その年の重要な政策課題を研究し、最終的には各自治体の首長の前で政策提案を行うものです。今年度のテーマは「人口減少社会突破戦略」と「空き家有効活用」でした。

県内からは二つのNPOが参加し、私はその内の一人として「人口減少社会突破戦略」の研究グループに参加しました。ここではさらに三つのグループに分かれ、私は「自然増」チームに入りました。

毎月1～2回、研究員の仲間と少子化の原因をグループワークで話し合いながら、さまざまなデータを調べ、どのようにしたら出生率を増加できるかに焦点を当て議論してきました。その背景には、「未婚化の進行」と「晩婚化の進行」、さらには日本人の妊娠・出産に関する医学的・科学的な知識不足、離婚数の増加など、さまざまな要因が見えてきました。また、日本では婚外子の割合が非常に少なく、結婚してから子どもをつくるカップルが多いため、未婚化と晩婚化の進行が出生数の増加に大きく歯止めをかけていることが分かりました。それらを基に私たちは、首長へ向けて提案する三つの事業を考えました。詳細はスペースの関係で割愛させていただきますが、本研究会の報告書がFICECにあるので、ご興味のある方はご覧ください。

本研究会に参加して、人口減少社会を乗り切るには、何よりも「人とのつながり」であると感じました。若い男女がカップルになることも人と人がつながることであり、そのカップルが結婚して子どもを生み、それを見守り支えていくのも地域の人々とのつながりです。年代性別を超えて、多様な人がつながれる仕組みをいかに創っていくか、それが豊かな地域づくりとなり、人口減少社会を支える基盤になっていくと考えています。

最後に、本研究会に参加する機会を与えてくださった「彩の国さいたま人づくり広域連合」のみなさま、講師の先生方、一緒に切磋琢磨した研究員のみなさま、この場を借りてお礼をお伝えしたいと思います。ありがとうございました。

(加藤)

「ふじみ野市市民活動フェスティバルに参加」

1月30日(土)に、ふじみ野市サービスセンターホールでふじみ野市市民活動フェスティバルが開催されました。当日は雨で外会場のイベントが出来ず残念でしたが、中の会場では市民活動団体によるパネル展示や、ワークショップ、コーヒーやクッキーの販売、スタンプラリーなど大勢の方たちが訪れていました。FICECは「世界遺産クイズ」「日本語能力試験に挑戦！」のコーナーと展示を行いました。

「韓国家庭料理講座」

ふじみ野市の地域サークル「ふじみ野HANAくらぶ」さんより依頼を受け、安(あん)先生による「韓国家庭料理講座」を2月23日(火)に上福岡西公民館で開催。12名の方に参加していただきました。

メニューは、「タッカルビ」、「ジャガイモのチヂミ」、「明太子スープ」、「韓国風のり巻き」の盛りだくさんなメニュー。韓国の味噌「コチュジャン」や、「エッチョッ」と呼ばれる韓国の魚醤を使い、手軽に作れる韓国の家庭料理を楽しみました。

食後は、皆で柚子茶を飲みながら安先生がハングル文字の読み方を教えてくれました。一見、複雑な暗号のように見えるハングル文字ですが、基本的にはローマ字と同じ構造。日本語と文法は似ているし、なんだか親近感が湧きます。

「ウズベキスタン料理教室」

3月19日(土)に「ウズベキスタン料理教室」をピアザ☆ふじみで行いました。メニューは「ラグメン」(マトンと野菜たっぷりのスープが入った麺料理)とウズベキスタン伝統的なパンでした。遠くからもたくさんの人達に参加してくれました。先生を囲み、おいしい料理を食べながらウズベキスタンの話で大変もりあがりました。

センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

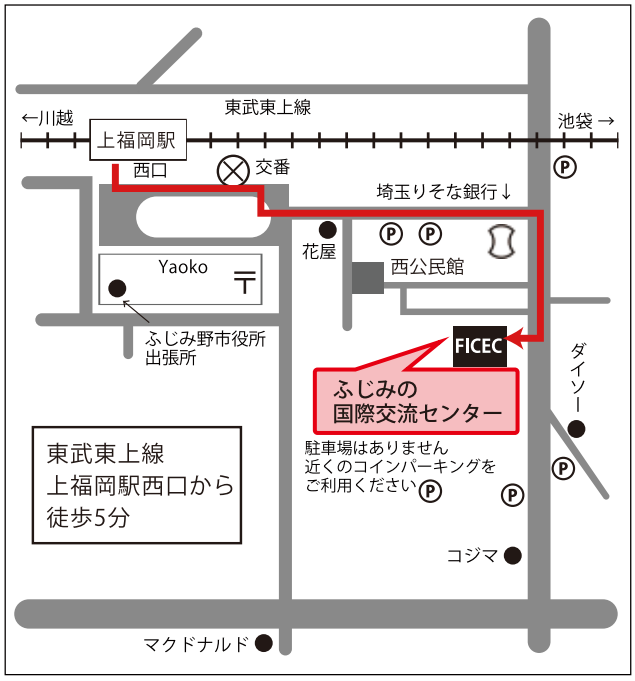
郵便振替口座:00110-0-369511
口座名:ふじみの国際交流センター

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00
電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
センターをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
TEL: **049-256-4290**　FAX: 049-256-4291
生活相談専用電話 049-269-6450

ご寄付をいただいた方々
ご支援ありがとうございます

●2015年1月～　(50音順・敬称略)

阿澄康子、新井順子、アリミナ、新井洋子、安銀柱、イオン(株)大井店、石塚雄康、イスマイロワ・マストラホン、板倉浩子、伊藤真弓、岩田レニ、インデイ・ヤマンゲ、上原美樹、尾浦与子、大澤エミリー、太田原裕、荻原千代子、小原知子、加藤久美子、加藤惣一郎、加藤由里子、葛西敦子、金沢国勝、神田順子、木村澄恵、木村梨絵、木村不二雄、丘亜蘭、邱皇親、樟山直美、熊谷洋興、栗島三千代、国際ソロプチミスト埼玉、木場ひろみ、小林暁美、駒形一夫、酒井有香、サタール・イクラ、佐竹裕子、佐藤弘康、佐藤義治、島田道子、シモモトアナリザ、ジェンファラグリン、江　科、鈴木プレシーラ、高野好代、高橋　博、竹内直江、武田和子、武田早希、田中つや子、近澤エルザ、坪田幹男、チャミンダ・ニサンティー、チョン・ヒョンスク、寺村璧如、出口優子、戸塚咸子、内藤忍、中村禎作、野沢弘子、早瀬佐恵子、東入間地区遊技業防犯協力会、彦由章、彦由眞希、星野秋梅、松本ノエミ、向吉孝子、茂木久美子、森田信子、矢澤美紀、山内典子、山田ジョセフィン、吉井ジュリエッタ、吉永義久、リバテイ、劉圭霖

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センター
サービス案内

外国人ゲスト派遣	国際理解教育	3,000円＋交通費＋事務費	
	外国料理教室	5,000円（材料費別途）	
日本人講師派遣	多文化共生講座 ボランティア講座	20,000円＋交通費 (活動運営のためご協力ください)	
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等		内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作		
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4　2,000円/ページ	
	その他文書	A4　3,000円/ページ	
通訳	半日5,000円＋交通費		
見学・研修(資料代として)		1,000円／人、日	
○印刷機、コピー機が使えます			

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。